

第1回 港湾ロジスティクスワーキンググループ 議事要旨

日時：令和8年1月20日（火） 14：00～16：20

場所：中央合同庁舎3号館4階幹部会議室

1. 港湾ロジスティクスを取り巻く現状と課題や、港湾ロジスティクスの強化に向けた論点について確認するとともに、関係団体等から各業界の取組状況や港湾ロジスティクスに対するご意見等を伺ったうえで、意見交換を行った。
2. 意見交換では、委員から、以下のような意見があった。
【港湾ロジスティクスの必要性について】
 - ・ 経済安全保障の観点から、日本の港湾を通じて何が実現できるのか、改めて考えるべき時期に来ているのではないか。
 - ・ 日本の港湾が選ばれるためには何よりも政策実施のスピードが求められる。
 - ・ 港湾は、日本のモノづくりをしている企業、資源や食料品を輸入する企業にとって生命線である。荷主企業にとっては、いかに港湾機能が止まらないか、船社に日本の港を選んでもらえるかが全てであり、日本の港を選んでもらうためには、どれだけ貨物があるか、いかに効率よく運営されているかが重要。
 - ・ 日本の国際コンテナ戦略港湾をいかに強化するかが何よりも重要なポイントであり、日本経済を根底から支えるために不可欠である。
 - ・ 国際基幹航路が失われると輸送日数が増える。輸送日数が増えるということは、企業にとっては、洋上にある貨物を在庫として抱えることになるため、国際基幹航路があることは有事のみならず普段から重要である。
 - ・ 国際基幹航路がなければ、日本企業による海外での生産が増え、日本の技術力が流出するなど、経済安全保障上の影響も生じる。
 - ・ 他国への依存の観点、特に国際物流・海運が不安定な状況の中

ではできるだけ直航便を確保する必要があり、そのためには大規模港湾の整備を進め、諸外国よりも日本が選ばれる状況を作っていかなければならないのではないか。

- ・ 港湾ロジスティクスを成長戦略として考えるにあたり、どのようにして民間投資を呼び込んでいくかについて検討・分析が必要である。
- ・ 日本経済の中で、陸と海の結節点としての港湾の役割を改めて検討し、社会に伝えていくことが必要である。その際、日本の産業政策と連動した形で港湾政策を実施することが必要である。
- ・ 倉庫を含む内陸部や内航海運との組合せなど、一連の輸送ネットワークを整備し、強靱化することが求められるのではないか。

【港湾における自動化、DX、GXについて】

- ・ 自律的な港湾ロジスティクス実現に向け、荷役機械の競争力を高めるため、何らかの支援が必要ではないか。
- ・ 荷役作業の効率化、港湾労働者の確保（労働環境改善・生産性向上）の観点から、荷役機械の自動化・遠隔操作化を着実に進めていくことが必要である。また、その導入計画について目標を明確にして明示することも必要ではないか。
- ・ 荷役機械については価格の高騰等により港湾管理者や運営会社の負担になっている。地方の港湾の荷役機械が停止すると、国際コンテナ戦略港湾の集貨の妨げにもなることから、大港湾だけではなく地方港湾も含めて、荷役機械の調達・保有やメンテナンスを行う仕組みも必要ではないか。
- ・ ハード面とともにソフト面の視点も重要であり、自動化に適したコンテナターミナルのレイアウトやオペレーション、港湾の頭脳であるターミナルオペレーションシステムの改善など、ハード・ソフト両輪からのバランスの良い取組が必要ではないか。
- ・ 選ばれる港湾にするためには、施設の自動化・遠隔操作化、電化が重要であり、これらの取組がカーボンニュートラル化に

も有効な手段であることに留意が必要である。

- ・次世代燃料船に対応できる港を有することが日本の競争力を高める手立てになることも考えられ、次世代燃料バンカリングの取組が重要ではないか。

【サイバーセキュリティ対策について】

- ・サイバーセキュリティ対策については、今後、自動化・遠隔操作化が進めば、ますます重要性を増す。現在はターミナルオペレーションシステムを対象に制度的措置を講じているが、これ以外にも対象を広げていくことも考える必要がある。
- ・港湾におけるサイバーセキュリティ対策を進めるにあたり、専門知識を持つ人材の確保や資金面が障壁になるおそれもあるため、サイバーセキュリティ対策を担う全国的な組織も必要になるのではないか。
- ・サイバーセキュリティ対策について、事業者、機器、通信の3つの対象が考えられる。役所間でも連携し、他分野や他国の取組、教材も参考にしつつ、対策を進めてほしい。

【労働者不足対策、担い手の確保について】

- ・労働者不足対策として、他分野との人材の取り合いが想定される中、人材の確保や適正な料金収受とセットで、自動化についても今のうちから進めるべきである。
- ・自動化・遠隔操作化を前提とした担い手の確保として、オペレーターに求めるスキル等を整理する必要があるのではないか。
- ・港湾には、ゲートオープン時間や年末年始荷役、寄港時の事前協議などがあり、これらが原因で日本の港が選ばれないということのないようにしてほしい。

【その他】

- ・今後は北極海航路が戦略的に重要な航路になっていく。日本は相対的に有利な地位にあり、北極海航路を想定した港湾整備や北米航路の重要性が増すことも想定されるため、これらも踏まえたビジョンを描いていく必要があるのではないか。